

勝林寺寺報

たとえばひとつの中の豆腐の中に混ぜこんで一つのまとめた味に仕立てる。それが「あえる」です。

それぞれの者が、それぞれの「自分」を主張し、対立し差別しあい、抗争しながら生きるのではなくて。大きなのちにめざめ、その大きなのちを共に生きる。それが「和」平和であるわけです。ですから太子は、「和」平和の根柢、もののみなのいのちの終局のよりどころは「篤ク三宝ヲ敬エ」。仏法に目覚め仏法を共に生きる、そこにはじめて平和、だれもが共に輝いて生きる世界があるのでよと教えて下さるのです。

大伴、蘇我、物部などの氏族対立ばかりでなく、天皇家同族の間での血の争いのなかで、摂政の宮として孤軍奮闘し、結果その不和抗争の渦のなかで一族憤死なさった聖徳太子であるだけに、この十七条憲法のおことばは切実であります。

「和ヲモツテ貴シトナセ、忤ウコトナキヲモツテ旨トナセ」

血の争い、家の対立、主義主張の抗争はもういい加減にやめようではないか。和ヲモツテ貴シトナセ。だれもが睦みあい、共に生きる平和こそ、生きとし生けるもののいのち輝いて生き得る道なのだからではないでしょうか。

「和ヲモツテ貴シトナセ」

その聖徳太子から一三七〇年。このおとばば、現在を生きる今のわたしたちにも、鋭く問い合わせ訴えかけていることはではないでしようか。

平和の「和」、和モツテ貴シトナセの「和」は、もと中国では会合などの會や絵画などの絵と同系統。同じ場所にいろいろの人が出会う、違った色の糸をより合わせてまとまつた模様を描くなどの意味の文字です。日本では古く「アエル」と読みました。「あえもの」「しらあえ」などの「あえる」です。大根、せんまい、コンニャクなどいろいろ違つたものを、

代議員会案内

2月9日(田)
午前九時半より

☆代議員さまは地区で「臨時号議案書」によりご協議のうえご出席下さい。欠席の場合は必ず代理をおたて下さい。

「一日一日を我欲私欲の尺取り虫のよう
な蚕のような自分本位ないのちに生きて
いたのでは、結局破滅だよ。
そのような生き方をしている浅ましい
わたしに、久遠のむかしから今にいたる
まで「帰りつき依りかかれよ」と呼んで
くださる、本願の海・弘誓の海・無量寿
の海に目覚めて、攝取のよび声「お念佛
のなかに共に生きかえろうではないかと
おすすめ下さっているのです。これが「往生淨土のみち」とよばれる
淨土真宗であり平和の道でもあるのです

にめざめ、その大きなのちを共に生きる。それが「和」平和であるわけです。ですから太子は、「和」平和の根柢、もののみないのちの終局のよりどころは「篤ク三宝ヲ敬エ」。仏法に目覚め仏法を共に生きる、そこにはじめて平和、だれもが共に輝いて生きる世界があるのだよと教えて下さるのです。

ただここで、自己なさろうとするあなたに、いわば生涯の「課題」として、考えていただきたいことがあります。それは「いいのち」「生きるということ」についての問題です。

今あなたは青春の真っ只中になります。輝くばかり美しい生命です。生きる力に満ちていればかりで、不安や危惧のかけさえもさきないでしょう。しかしこの時であればこそ、考えてほしいのです。

若さ・自信というものの、美しさ・力というものの、すばらしさと同時にそれはかなさを

成人式をお迎えになつたみなさん　おめでとうございます。

成人式は昔なら元服。一人前の大人として扱てもらえる世界への旅立ちを記念する式です。選挙権が与えられて政治的にも一人前の人格が認められます。“法律のうえでも責任と義務”とが負わされます。“経済的には、自立するまでにはまだしばらくあるとしても、もういままでのよう親のすねをかじつてばかりもおられません。”なにかにつけて「自立」し「一人あるき」せねばならない世界に、一步を踏みいれたわけですね。

前途々々、ほんとうに　おめでとうございま

お祝いのことば

寺から聖別と法語の冊子とをお祝いに贈りました。

兼井伸二さま（栗尾）
森重也さま（正法寺）
数森章子さま（正法寺）
森谷垣恭子さま（小谷）
森中川郁（鍛冶屋）
森斎藤玲子さま（小田）
谷垣田中正司さま（八鹿）
稻葉美奈子さま（小田）
衣川雅之さま（出合）
洋一さま（野尻）

みすからに、はかなきや愚かさを見ない自信
や強さや賢さは、実にあぶなく危険な生き方
です。自己のなかに、どうしてみようもない醜さ愚
かさをみすえながら、最も美しく強く生きら
れたかたが親鸞さまです。わしたちのくらしのなかの、もろさや醜さ
や愚かさをかかえながら、それでもすれば暮らし
いのちを生きていく道を指示してくれる
のが仏教です。もろい今まで強く生きかえる道。
もう私が、もろい今まで強く生きかえる道。
みにくい私が、みにくいままで輝かしく生きか
える道。
はかない私が、はかないのちのまま、永遠
のいのちに生きかえる道。
親鸞さまはそれを「生死出ずべき道」とも「往
生の道」とも、また「帰命無量寿の道(尽き
ることのないのちにかえる道)」ともいっ
ておられます。(後略)

一日	横山誠氏宅百ヶ日法事
五日	本山
八日	滋賀教区蒲生上組僧侶研修会
九日	成田捷明氏宅祥月
十日	代議員会
十三日	玉日会定例法座
十六日	ダーナの日
二〇日	坪木信義氏宅法事
二二日	仏壯役員会
二三日	仏壯總会
二四日	十六夜会定例法座
二五日	北海道教区連研研修会
二六日	同じ、
二七日	同教区門徒推進員研修会
二八日	同じ
本山	福岡教区連研研修会
同じ	みのりを聞く会
仏婦評議員会	仏婦評議員会

二月のこよみ

成人式をお迎えになつた次の皆様に
寺から聖典と法話の冊子とをお祝い
に贈りました。

一日 横山誠氏宅百ヶ日法事
成田捷明氏宅祥月

新春雜感



新しい年をむかえて雑句
◇癌死のこときかぬふりして梅一輪
◇孫果ててみ仏の國に還りくる
◇悲しみも慶びも連れ年明ける

今年は申年。
そういえば私の母も申年でした。して

みると今生きておれば八十四歳。

「生者必滅 会者定離」

ということは、ご法話で聴聞したので
しょう。「だから今の出会いを大切にしな
ければ」と、口癖のようにいっていたこ
とを、私はいまになってつくづく思うの
でございます。

それというのも特に昨年は身近な方々
が次々にお亡くなりになつたからでしょ
う。

門徒総代の永井貞雄さま、東光寺ご住
職の東井義雄先生、そしてわがお寺の坊
守さま。仏婦会員がお二人。それから

私の最初の外孫が十五歳(高校一年の
男子)で亡くなりました。

生者必滅 会者定離

生あるものは必ず死に帰し、この世で会
て暮らす者もいつかはきっと別れなけれ
ばならない。それがこの世のさだめと、

あきらめ顔しても、どうしてもあきらめ
きれないのも人の世のさだめと、みにし
みて知らさせていただきました。

娘夫婦が、四十九日が過ぎ百ヶ日がす
ぎても、その辺からふと亡くなつた子が
帰ってくるのではないかという気がして
戸を少し開けているのだ申します。

しかしそうしたなかにも、別れてみて
はじめて、親に子に、夫に妻に、ほんと
うに気づき出会わせていただことができ
るのだと知らせていただきました。お念
佛がそのときどれだけ支えになつてくだ
さったことか。

二年間、仏婦の役員をさせていただい

たことにより、悲しみに出会つても、よ
ろこびに出会つても、合掌お念佛申せば、
なにか大きなものに包まれて気持ちが落
ち着くようになりました。

やはり大切なことは、少しでも多くの
ご法話聴聞にこころかけることと気づか
せていただきました。

たればばかりのことなく大きな声で「ナ
ムアミダブツ」とお念佛がお唇からで
きます。そして仏様のままで、い
ままで気づかなかつたことに、すこしづ
つめざめさせていただいております。

私たち仏婦の使命は、子や孫を「ほと
けさまの子供」としてそだてあげること
です。

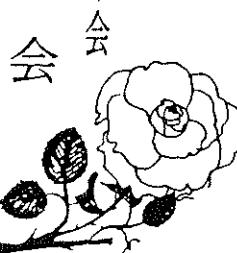
若いおかあさん。あなたも私も、そし
て子や孫たちも、阿弥陀さまの「無量寿」
のお慈悲のなかに、見守りつけられて
いるのですから。

親と子の 緣 は切れず こぼれ萩

一月二十一日

仏婦会長 宮嶋 幸子

仏教青壯年会
評議員会



2月16日(日)
追ってご案内します。(予定下さい。)

仏教婦人会
評議員会



2月23日(日)
追ってご案内します。(予定下さい。)

ダーナ慰問の方々

谷原 亀井 関岡 中嶋 湯口

ちゑ様(出石) ふじ様(百合) みね様(坪口)

ねい様(坪口) たけ様(榎見) ちゑ様(小田)

はつ様(唐川) はつ様(栗尾) かの様(小谷)

道野様(正法寺) つま様(小谷) つま様(小谷)

古田 成田 沢田 沢田 道野様(正法寺)

坂本 古田 生田 ふく様(出石) ちゑ様(和屋)

湯口いしみ様(たじま荘) ふく様(出石) ちゑ様(和屋)

たか様(大阪) たか様(大阪) ふく様(出石)

湯口いしみ様(たじま荘) つま様(小谷) ちゑ様(和屋)

お、ことわり、ご挨拶

この冬は暖冬異変といわれるほどあつ
たかでございましたが、いかがお過ごし
でござりますか。

2月10日(月)にご慰問申したいと
存じています。

◎家は代々真宗門徒。うちには確かな真
宗仏壇がある。しかし肝心のあなた自
身はどうでしょう。わたしにとつて宗教とは何だろう。
浄土真宗の念佛は、わたしのいのちに
今なにを呼びかけているのか。

◎いま生きているいのちの感覚のなかか
ら、自らもとめて、しかも続けて、筋道
立てて、聞いてみようではないか。なる
べく若いうちに。

『連研』のすすめ

佛と対座し
自己をみつめる

新春の朝



はれやかに

兵庫放正門徒推進員連絡協議会

出石組ではこの四月から第8期
の『連研』を始めます。(日
程は「勝林寺報」1月号をご覧ください。
後日「要綱」をお渡しします。
ご応募ください。